

「川崎市民アンケート」自由記述欄に寄せられた市民の願い

日本共産党川崎市議団

全体の特徴

全体の集計結果からみる特徴は前項までのとおりです。ここでは、自由記述欄に書かれた内容から、市民のみなさんの関心や政治に対する願いなどについて考えていきます。

まず、市民の関心事は何かをみるために、市民アンケートの回答用紙に記した『年金』『ゴミ』『保育』などの主要項目ごとに自由記述欄への記載数を比較しました。¹

その結果（右表）、「年金」が群を抜いて多数でした。また「年金」「介護」「保険（料）」は大幅値上げが直撃する高齢者を中心に、幅広い世代が記述されていました。

2位の「ゴミ（ごみ）」も各世代が普通ゴミの回収の回数削減に関して記述するとともに、一部には「原発から出る放射性廃棄物のゴミ」を問題にするものもありました。また「給食」「保育」「子育て」など子育て世代の要求にかかわるキーワードや、「原発」「放射（線・能）」なども上位を占めました。

表：市民の関心事

順位	検索ワード	数	順位	検索ワード	数
1	年金	807	12	教育	152
2	ゴミ(ごみ)	428	13	国民健康保険(国保)	131
3	介護	366	14	雇用	118
4	保険	350	15	増税	113
5	給食	289	16	消費税	112
6	保育	278	17	小児医療	111
7	保険料	250	18	地震	111
8	原発	225	19	開発	109
9	子育て	201	20	コンテナ	94
10	放射	156	21	港	81
11	生活保護(生保)	153	22	防災	77
			23	震災	30

1.地震・防災、原発—「市の責任で避難所や防災備蓄の整備を」「原発から自然エネルギーに転換を」の声が多い

地震・防災の問題では、「避難所の確保や備蓄を」「コンビナート火災に備えて企業と連携し情報提供を」など行政が災害時の市民の安全に責任を果たすことを求める記述が多数ありました。

- ▼災害時の食料品、水などの備蓄状況を地区毎に充実し、住民に周知すべき [麻生区・70代男性・年金生活]
- ▼看板など誰にでも解かる様に道順などの表示。基本セットの配布（都内では当たり前）。[宮前区・40代・無職]
- ▼隣の家は古い家です。区役所は直すべき家は直してもらいたい。隣がくずれてきたら健全な家もおれる原因になります。一軒一軒訪問して、川崎市の公の資金を加えてまでもその古い家は直した方がよいです。【コンテナ港・臨海部開発】はその資金にあててもらいたいです。[高津区・60代女性・会社員年金生活]
- ▼【地震防災】川崎臨海部における防災対策は企業と市の連携でどの程度の対策がとられているのか、住民に対して情報をもっと公開してもらいたい。[川崎区・60代・会社員]
- ▼地震などの災害時、地域ごとの防災用品はどのくらい備蓄しているのか知りたい。自分たちでの準備には限界がある（家も狭いし、お金もかかる。期限切れになってしまう）。[中原区・50代女性・非正規]
- ▼コンビナート火災がひじょうに心配。[川崎区・30代女性・非正規]

原発・エネルギーの問題では、一部に原発が不可欠だと主張するものや、当面は再稼働はやむを得ないのではないか、とする記述もありましたが、多くの方から「脱原発をすすめる再生可能エネルギーの開発をすすめてほしい」という声も聞かれました。

¹ 調査方法:自由記述欄に記入のあった2110通の内容をエクセルの1セルにつき1回答ずつ打ち込み、キーワードごとに検索し、その数を比較した。

い」 「川崎市が率先して再生可能エネルギー導入に取り組んでほしい」との声が寄せられました。

▼原発は将来的には廃止にした方がよい。代替エネルギーの開発に力を注ぐべき。[幸区・40代女性・無職]

▼すぐにも原発は中止すべきです。絶対安全はありません。それに代わるエネルギーを早急に開発すべきです。太陽光・風力・地熱・バイオなど考えられることをやってほしいと願います。川崎市が率先して取り組んでください。[宮前区・70代女性・年金生活]

▼原発廃止。太陽光発電設置をマンション・戸建て・積極的に進める公費で。電力会社は原発に投資するな、その資金を風力・太陽光に向けてほしい。[宮前区]

▼再生エネルギー、自然エネルギーの開発や災害対策の事業などに予算を使い、雇用を増やしてほしいです。人間の力で制御できない原発は即中止すべきです。[宮前区・60代女性・その他]

2.くらしー全世代で切実な生活実態があきらかに

高齢者世帯、子育て世代などから切実な実態を訴え、市民生活を応援する市政を求める記述が目立ちました。高齢者からは「このままだと死を待つばかり」というような内容、子育て世代からは「こんなに子育て施策が遅れているなら他の自治体に転居したい」という悲痛な思いの記述が、かなりの数に及びました。

(1) 高齢世帯―「このままだと死ぬしかない」「通院をガマンしている」など、ギリギリの生活実態

高齢者世帯からは、介護保険料・国民健康保険料の負担増の項目や、アンケート期間に消費税増税法案の国会審議があったことなどから、「ただでさえ安い年金の上に介護保険料をひかれ、さらに消費税増税ではもう生活できない」「これまでも病院への通院を我慢しているのに…」など悲痛な実態があり、その中でも「死ねと言うことか」「もう自殺するしかない」など胸が痛む回答も寄せられました、いくつか紹介します。

▼70才の障害者です。少ない年金から、介護保険+国保の料金支払いは今でも大変…3年後に2倍値上げ実行されたら生きて行けない。暗い気持ちになる。[高津区・70代女性・無職]

▼年金の目減りは生活出来なくなります。自殺するしか思いあたりません。未来に希望が持てなく生きる力もなくむなしいです [川崎区・70代女性・年金生活]

▼消費税が値上げされれば、生活がもっと苦しくなる。その上介護保険料や健康保険料の値上げが重なり、庶民の暮らしはますます追い詰められます。今日も美容院で「これから生きていても不安だらけだね。長生きすればするほど先が真っ暗。楽しみは何もないね」と将来への展望が見いだせない話題ばかりでした。

[川崎区・60代女性・正社員]

▼働いて収入を得ることのできない人たちは年金のみが収入源です。介護・国民保険料・税金等支払えるわけがない。おにぎりが食べたいと言って死を待つべきか。[麻生区・80歳以上男性・年金生活]

また、生活保護基準より年金支給額が安いことへの矛盾を指摘する記述が目立ちました。日本共産党の『経済提言』で主張している最低保障年金の確立や医療費の窓口負担の軽減とともに、介護保険・国民健康保険料の負担を減らしていくことが早急に求められています。

▼生活保護の人より少ない年金で毎日必死で生活しているのに、年金は少なくなり介護保険など引かれるのが多くなり、どのように生活するか、病気になっても病院には行かれない。[宮前区・70代女性・年金生活]

▼今年65歳になり年金をいただくことになりました。生活保護の金額よりはるかに少ないとは、何のために頑張ってきたのか、その少ない受給額から、健康保険、介護保険を無理やり引き取られるのですから。一人暮らしの上、長い間の無理もあり病気があります。年金はいりませんから生活保護をください、と言いたいです。クーラーも付けたことありません。[幸区・60代女性・年金生活パート]

▼今年年金生活に入り、月6万円位の年金では体調悪くなり病院に行きたくても、眼科も外科も内科も我慢するし

かありません。パート時代、苦しい中頑張ってきた人の方が生活保護より少ない年金生活なんてかわいそうです。助けてください。年金生活になって親の墓参りもいけません。[幸区・70代女性]

(2) 子育て世代—子育て施策の遅れに「2人目はあきらめざるを得ない」「引っ越しも検討する」の声が

子育て世代では、保育園に入れない実態や幼稚園の費用負担軽減を求める声、中学校給食や小児医療費助成制度の充実を求める声が多数寄せられ、「2人目（の子ども）を諦めないといけない」「保育園に入所できず、仕事をあきらめざるを得ない」といった切実な回答が多数ありました。

▼悩みは、子供が保育園に入れず、仕事が出来ないことです。結局幼稚園に入園させる予定ですが、保育時間が短い為、仕事をするならば延長保育で預け、多額の出費になりそうです。このような状態では、2人目が欲しくても作れそうにないです。[高津区・20代女性・専業主婦]

▼1才と3才と子どもがいます。3人ほしいので働きたいけど、保育園になかなか入れない状態。入れても3人目妊娠、育児中保育園をやめるか、産休中に保育園代を払う事を考えると、保育園は難しく、幼稚園にいれるしかないが、横浜市にくらべると費用が高く3人目を産んで育てられるか不安。周りにも3人ほしいけど、金銭的にあきらめている人がいっぱいいます。[宮前区・30代女性・無職]

▼子供を産み育てるのがひじょうに難しい世の中になっています。来年3人目の子供が生まれる予定ですが、パートで働くママでは保育園に入れないのです。収入が不安定でパートで働いている人達こそ保育園（認定）でお願いしたいのです。働きたくても認定の保育園に入れなければ働いてもマイナスになってしまい、無理だというママがたくさんいるのです。[多摩区・30代女性・パート]

▼子育て支援が他の市に比べると全く整っていない。中学校の給食がない事、小学生に医療費がかかること、幼稚園の費用が高すぎることで、そして保育園・幼稚園が足りていない。少子化というが、子どもを育てにくすぎる。3人目を来年出産予定だけど、生活に不安しかない。[川崎区・20代男性・正社員]

また、他の自治体の子育て支援施策と川崎市の子育て施策のあまりの落差に、20人を超える方々が「このまま子育てに冷たい川崎市のままだと東京への転居を検討する」など、転居を希望・実際に転居した・川崎市に住宅を購入したことを後悔する、といった趣旨の記述をしていました。

▼子どもがもう一人欲しいなと思っても、今の社会（特に川崎市は子育ての支援も悪く）では無理だと諦めてしまいます。小児医療助成もやっと小学校1年生まで出るようになったが、中学まではせめて対象にして欲しいし、給食の実施もあまりに低くて呆れてしまう。実際、私のママ友は引越する際、子ども支援が多い所へ皆移ってきます。[多摩区・30代女性・主婦]

▼医療費、中学校給食は、改善しなければ東京都への引っ越しを検討。[川崎区・30代女性・自営業]

▼中学になったら給食もなくお弁当になります。まわりのお友達は子育てしやすい環境へと（都内など）引っ越ししている人もいますが、引っ越しできない親達は毎日必死に働いて子育てをしていくしかありません。もっともっと子育てしやすい環境にしてください!! [高津区・30代女性・パート主婦]

▼川崎市の子育て支援は、他の市（特に東京都）と比べると手薄な気がします。特に今我が家が直面しているのは幼稚園費用の高さです。川崎市に公立幼稚園がないので選択肢がなく、月3~4万の幼稚園費用は家計には大きな負担で、公立幼稚園のある市に引っ越しを考える友人もいます。[多摩区・20代女性・無職]

これらの切実な声にこたえて、子育て施策を充実することが急務です。

(3) 雇用問題にかかわって—労働者、高齢者からも「正社員と非正規のダブルワークでやっと子育てしている」「高齢でも働かないと生活が成り立たない」などの実態が

くらし・生活の実態にかかわって、非正規労働が広がるもとの低賃金や長時間労働の実態や、「若者がまとも

に正社員で働けないとこれからの社会はどうなるのか」といった社会のあり方を危惧する声が寄せられました。また、60代など高齢世代からは「低年金・負担増で働かないと生活できないのに仕事がない」という声、子育て世代からは「保育園に預けられず職場復帰をあきらめた」「保育園に入れないため仕事探しもできない」など、子育てと仕事を両立できないという実態も次々出されました。

3. 普通ゴミ収集削減、大型開発—政治姿勢への疑問と「なぜ計画を知らせないのか」との声

本来なら市民に広く知らせて是非を問うべきゴミ収集削減や大型開発問題に対し、「ゴミ収集回数を減らすのなら市民に説明すべき」「こんな大型開発計画は初耳」という声が寄せられました。また、増税・負担増のもと市民サービスを削りながら大型開発を行う政治姿勢に怒りを表明する記述が多数ありました。

(1) 普通ゴミ収集の削減—「オムツが大変、せめて夏は3回に」「計画や削減効果など広く市民に説明を」

全体では66%が「週3回の維持を」と回答しました。自由記述欄では「夏季のみでも3回を維持してほしい」との声、介護や子育ての当事者からは「オムツがたまるので3回を維持してほしい」との声が目立ちました。

▼普通ゴミの収集は週3回で、子どものオムツは一年中何日も置いておくと、臭いし週2回は厳しい。

[川崎区・40代女性・パート]

▼オムツは1日3回は変えるので、30枚入り3000円、あっという間になくなる。尿トリパットも同じです。ゴミ収集の問題、オムツ交換で大量に出ます。良く考えてほしいです。[幸区・70代女性・無職]

▼夏季のみ週3回が良い。[中原区・30代男性・正社員]

▼普通ゴミ、夏は週3、冬は週2にするなどの対応は難しいのでしょうか。夏の週2回では生ゴミがたまってしまったり、不法(不当)に捨てる人がさらに増えて、収集所のまわりの方々のご迷惑がさらに増える一方のような気がします。[高津区・30代女性・非正規]

また、「このアンケートで初めて削減計画を知った」「収集回数を減らすなら市民に説明を」「週2回にしてどれだけの削減効果があるのか」など、広く市民に知らせることや納得いく説明を求める記述も多数ありました。

▼ゴミ収集は週3回のままにしてほしいです。週2回だとゴミの量が増えて、収集場付近の人も困ると思います。あと、知らない人が多いと思います。勝手に決められても困りますし、反対できる場面を作っていただきたい。

[高津区・30代女性・正社員]

▼ゴミの収集回数を週3回で維持してもらいたい。変更をするならば、その理由を市民に十分説明した上で実施すべきだと思う。[麻生区・30代男性・教員]

▼【ゴミ収集】週2回にすることによってどのぐらいのお金が浮くのか、浮いたお金は何に使われるのかを明らかにしてほしい。(これらを)市民に明らかにしたうえで実行に移してほしい。「明るい川崎」に“十分な市民説明と～主張しました”の言葉にその通りだと感じました。[宮前区・20代女性・正社員]

(2) 臨海部開発・川崎港コンテナターミナルなどの大型開発—「そんな予算があるなら子育てや介護に使ってほしい」「必要な計画ならなぜ市はちゃんと知らせないのか」

京浜臨海部ライフインノベーション国際戦略総合特区構想・国際コンテナ港湾計画などの大型開発計画については、アンケートに賛否を問う項目はありませんでしたが、自由記述欄でこの問題に触れた方の多くは、市民の願いに背を向けながら大型開発に税金を投入する姿勢を批判するものでした。

▼東京・横浜港を控えている川崎港に、1000億円の投資するコンテナターミナルを拡張しなければならない理由は何か？まずは詳しい理由説明があつてしかるべき。一部の建設業者のために拡張するのか？事業として採算はどうなるのか？多分赤字を増すだけだと思います。川崎ファズの失敗例もある。[川崎区・70代男性・年金生活]

- ▼【コンテナ港・臨海部開発】は知りませんでした。市民の生活に直接利益が得られない開発には反対ですね。
[麻生区・40代女性・非常勤学校司書(県立高校)]
- ▼川崎臨海部の大型開発に大変なお金を掛けても利益が出なければ無駄なものだと思います。それよりも先に老人が澤山増えているので特別養護老人ホームにお金を掛けてほしい [幸区・80歳以上女性・年金生活]
- ▼(5)(6)、必要ならば手を振って市民に知らせるべき。[高津区・70代男性・年金生活]
- ▼【コンテナ港】こんなお金があるなら、福祉・健康保険・税金を下げてほしい。市営住宅に入りやすいようにしてほしい。[川崎区・60代男性・自営業農業]
- ▼【コンテナ港・臨海部開発】にお金を使うのではなく、まず最初に子育て支援や教育、雇用と労働、この2つをしっかりと支援をしないと、もっともっと経済は変わらない。[多摩区・40代男性・公務員]

4. 市民の願い―「本当は実現したいけどガマンしなければ」との傾向も

市民の生活はギリギリのところまで追いつめられ、多くの方から切実な要求が寄せられています。一刻も早く、市民の願いにこたえて政治の流れを切り替えていくことが求められています。

その一方、阿部市長が「川崎市は財政難だ」として職員削減など行革を推進するも、このアンケートには「本当は願いを実現したいけれど、財政難だからガマンしなければ」という傾向も表れています。小児医療費助成制度の拡充や中学校給食の実現、普通ゴミ回収の週3回維持や、介護保険・国民健康保険の負担増など市民の切実な要求であるにもかかわらず、「負担増」「財政難」を心配して要求を手控える回答が一定数ありました。

- ▼【ゴミ】【小児医療】望んではいませんが、財政難の中、どこかを削って優先順位をつけなくてはならないので仕方ないかと (多摩区 40代女性)
- ▼医療費が意外に高い。インフルエンザや歯医者、ケガの通院など病院にかからなくてはダメな時に、大変なので助成制度が必要!! 国保料を上げると、その保険料のために病院に行きたくても行けなくなる!! 中学卒業まで拡大が難しければ、せめて、小学校卒業まで拡大してほしい。[宮前区・30代女性・自営業農業]
- ▼他県で実施している中学校給食を実施してほしい。今から設備をつくるのは無理だと思うので、お弁当の配送でも良いと思う (有料が良い)。共働きには、弁当を家で準備するのは負担。[幸区・30代男性・正社員]
- ▼急増する高齢者医療費に対処するためには保険料の大幅引き上げ、大増税、本人負担割合引き上げしかない。どれも避けたいが、やむを得ず、公平なのは受益者負担を増やすこと。(麻生区 60代男性)

5. 市政革新の道筋と市民要求実現の展望をさしめず日本共産党の力を大きく

これまで述べてきたとおり、市民に冷たい市政のもとで「高齢者への負担増は、自殺しろと言うことか」「子育てできないので他市に転居したい」など、市民の生活は限界に達しています。市民生活を応援する市政にきりかえることがいつにも増して切実であることが、このアンケートで明らかになりました。

その一方で、「本当は要求したいけど財政難ならガマンしなければならないのでは」という市民の迷いも示されました。日本共産党川崎市議団は、これまでも「船のこない港」など大型開発をやめれば市民の願いが実現できるという展望をさし示してきましたが、市民のみなさんと手を取り合って要求実現の運動を広げながら、どうしたら市民の願いが実現できるのか、さらなる展望を示す役割を果たすことが日本共産党に求められています。

今後とも、アンケートに寄せられた声や願いを力に、調査・市政研究を強めるとともに、日本共産党を強く大きくして、日本共産党に求められている役割を果たすため全力を尽くしてまいります。

以上